

明るく心豊かなまちを築こう まちづくり講演会

3月26日、市民憲章と市の花・木・鳥が制定されたのを記念して、まちづくり講演会が総合文化センターで開催されました。講演会では市民憲章と市の花・木・鳥が発表され、市内の小学生と三世代にわたる家族50人がステージに上がり、参加者とともに市民憲章を唱和。全員で唱歌「ふるさと」を合唱しました。講演では、評論家の金美齢さんがユーモアを交えながら自らの体験談を紹介し「ふるさと総社を愛する気持ちが大切。本物志向のすばらしいまちを作ってください」と語りかけました。



参加した約900人全員が、総社の風景を思い出しながら唱歌「ふるさと」を合唱。講師の金美齢さんは「大切にしたい日本人の心とまちづくり」と題して講演を行いました

ホタルの飛び交う榎谷川に こどもホタレンジャー優秀賞・池田小受賞

ホタルが棲める水環境を守る活動をする小中学生のグループを環境省が表彰する「こどもホタレンジャー」で、池田小の4年生（当時）が優秀賞に輝き、3月30日、東京霞ヶ関の同省で表彰されました。児童は、総合学習で学区内を流れる榎谷川のホタルが減ってきた原因を調査考察し、水質悪化が原因の一つと分析。家庭から汚れた水を出さないよう、回覧板やポスターで地域に広報したり、自分たちが育てたホタルの幼虫を放流したりして、環境の大切さを地域に広めたことが評価されました。



衆田教育長に笑顔で受賞の報告をする池田小の4年生（当時）の児童9人と担任の池上教諭

雪舟生誕の地・総社に誇りを 吉備路再発見講演会

3月24日、県立博物館を誘致する会による吉備路再発見講演会が、宝福寺の方丈で開催されました。今回の講師は、人気作家・童門冬二さん。今年が没後500年にあたる画聖・雪舟についての興味深い話が披露されました。会場を埋めつくした歴史ファン約280人は、メモをとるなどして熱心に聞き入っていました。今回で8回目となる同講演会は、市内の官民25団体でつくる県立博物館を誘致する会が、県立博物館を誘致するにふさわしい吉備路の魅力を再発見してもらうために毎年開催しているものです。



通常非公開の宝福寺方丈に詰めかけた参加者は、童門さんの軽妙なお話に聞き入りました

輝いている人

家中が竹ガニだらけ 妻もちよつとあきれ顔なんです



愛きようのある竹製のカニや昆虫を手作りするクラフトマン

久野信行さん（泉）

「これが親ガニでしょ（竹製のカニ2体を手に取る）。子どもも多いほうがいいと思ってるね。ほら（極小の子ガニ3体を差し出す）。今までにこの親子ガニを250組ほど人に差し上げました。だから、千体以上差し上げたことになります。これでもまだ、その数の分ぐらいいは我が家に残ってますがね。家中、竹ガニだらけなんですよ」と苦笑するのが、久野信行さんだ。作品の特徴は、孟宗竹の枝の節を使い、カニや昆虫の関節を巧みに表現していること。昆虫の触覚なども極細の枝先を用いて、忠実に再現されている。足や触覚の曲げや反りは、ロウソクや線香であぶって曲げる。そして何より、久野さんの手にかかれば、スズメバチやカマキリなど凶暴そうな昆虫も愛きようたっぷりの作品に仕上がるから不思議だ。

竹細工を始めたのは、およそ20年前。当時、教員を勤めていた高校で、竹細工同好会の顧問をしていたのがそもそのきっかけ。「竹は表情があつて、おもしろいんです。軽いし丈夫だしね。竹細工をすると無心になれるんです。忙しいときほどたくさん作っちゃって（笑）。作り慣れている竹ガニが増えた原因ですよ」と飾らず淡々と語る。近所の小学校の児童相手に、竹細工の講師を務めることがある。その講座には、子どもだけでなく、教員や親も参加するため大盛況だ。「最近、小学校では刃物を使わせないでしょ。だから子どもたちには新鮮なんです。モノ作りはやっぱりおもしろいんです。既製品にはない喜びです。それと、刃物で手を切ったら、痛くて血が出る。当たり前のことだけど、それが分かれば、他人を傷つけたりできませんよね」とゆつくりと静かな口調で話す。竹ガニが久野さんに、そつとほほ笑んだ気がした。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじや編集室（企画課）までご一報ください。自薦・他薦は問いません。